

第 1 章 令和 2 年度研究開発完了報告書

(別紙様式3)

令和3(2021)年3月12日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 栃木県宇都宮市埴田1-1-20

管理機関名 栃木県教育委員会

代表者名 荒川 政利

令和2(2020)年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2(2020)年4月1日(契約締結日)～令和3(2021)年3月31日

2 指定校名

学校名 栃木県立佐野高等学校

学校長名 青柳 育夫

3 研究開発名

地域貢献から世界の社会課題解決を目指す「田中正造型」グローバルリーダーの育成

4 研究開発概要

本校が育成を目指す6つの資質・能力を伸長させるため、1年目から4年までのSGH活動を踏まえて指定最終年度を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、研究開発の大きな計画変更を余儀なくされた。4、5月が休業となったため、6月から活動等の実施となり、1年生と2年生は主たる研究をグループ研究から個人研究へと変更した。3年生はそれまでの研究を進路と結びつけられるようキャリアパス研究を実践した。大きな変更を余儀なくされたが、基本的なプログラムの研究開発と実践は変わっていない。また、Critical Thinking Program(CTP)では、教科横断型の学習カリキュラムを実施し、さらにそこで身に付けた批判的思考力をもとに日本語ディベートを行った。5年目のプログラム等の研究開発を継続した。

また、SGHクラブではマレーシアと福島へのフィールドワークを計画していたが、渡航ができずオンラインでの講演や発表会を含めたプログラムの開発となった。ディベート班は大会や練習試合の多くをオンラインで実施し、フランス語班もコンクールにオンライン参加となった。今まで気付かなかったことであるが、オンラインでできることが多くあり、日常的に海外の学校と協働研究を行うなど新たな形のプログラムを実施することができた。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程										
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				○							○
とちぎの高校生課題研究発表会							○				
SGH 成果発表会											○

水俣高校合同中間 発表会								○			
セントテレサ校と の協働研究				←				→			
広報活動			←								→

(2) 実績の説明

ア 運営指導委員会の実施（8月、3月）

(ア) 第1回 SGH 運営指導委員会

- ① 日時 令和2(2020)年8月18日（火） 13：30～15：30
- ② 場所 本校 校長室、オンライン
- ③ 出席者
 - ・運営指導委員
 - 鈴木 典比古（国際教養大学 学長）
 - 池田 伸子（立教大学 副総長）
 - 田尻 信壹（目白大学人間学部児童教育学科学科長）
 - 小又 正高（株式会社あしぎん総合研究所 代表取締役社長）
 - ・管理機関
 - 吉川 知宏（栃木県教育委員会事務局高校教育課指導主事）
 - 相馬 学（栃木県教育委員会事務局高校教育課指導主事）
- ④ 内容 ・今年度の事業について
 - ・佐野高校 SGH 事業についての説明
 - ・佐野高校 SGH 事業についての意見聴取、質疑応答

(イ) 第2回運 SGH 運営指導委員会

- ① 日時 令和2(2020)年3月3日（水） 15：30～17：00
- ② 場所 本校校長室、オンライン
- ③ 出席予定者
 - ・運営指導委員
 - 鈴木 典比古（国際教養大学 学長）
 - 池田 伸子（立教大学 副総長）
 - 田尻 信壹（目白大学人間学部児童教育学科学科長）
 - 小又 正高（株式会社あしぎん総合研究所 代表取締役社長）
 - ・統括アドバイザー
 - 小松 俊明(東京海洋大学教授)
 - 松金 公正(宇都宮大学学長補佐)
 - ・管理機関
 - 吉川 知宏（栃木県教育委員会事務局高校教育課指導主事）
 - 相馬 学（栃木県教育委員会事務局高校教育課指導主事）

- ④ 内容 ・今年度の事業について
 ・SGH 成果発表会について
 ・SGH 後の事業について（佐野グローバル構想）

イ 「とちぎの高校生課題研究等発表会」および「グローバル人材育成講演会」の実施（県主催）

- ① 趣旨 県内高校生の課題研究の発表および講演会等を通して幅広い教養と専門性を身に付け、グローバル人材の育成を図る。
 ② 日時 令和2(2020)年11月9日（月）
 ③ 場所 本校、オンライン
 ④ 内容 県内各校が課題研究を発表。佐野高校は、SGH クラブ研究班（海外）の2グループがマレーシアのセントテレサ中等学校との国際協働研究の成果を発表した。

ウ SGH 成果発表会における指導助言

- ① 日時 令和3(2021)年3月3日（水）
 ② 場所 本校、オンライン
 ③ 内容 SGH 活動の成果発表の生徒の発表に対して、指導助言を行った。

エ 熊本県立水俣高等学校との合同中間発表会（海外グローバル研修は中止）

- ① 日時 令和3(2021)年12月18日（金）
 ② 場所 本校、オンライン
 ③ 内容 SGH クラブの国内班の3グループが課題研究の中間発表を水俣高校の生徒と行った。

オ マレーシア・セントテレサ校との国際協働研究

- ① 期間 令和2(2020)年6月3日（水）～令和2(2020)年12月11日（金）
 ② 場所 本校、オンライン
 ③ 内容 マレーシア・セントテレサ校との協働研究にあたり、指導助言を行った。

カ SGH に関する広報活動

- ・SGH 校の取組の紹介ポスターの展示（県庁内）
 ・県教委だよりでの SGH 校の紹介 等

6 研究開発の実績

（1）実施日程

業務項目		実施期間（令和2年4月1日～令和3年3月31日）											
グ 探 究 バ ル	グローバル基礎(1年)、応用(2年)、発展(3年)での課題研究	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			1年	←									→
			2年	←									→
			3年	←							→		
グ 探 究 バ ル	フィールドワーク			1年	←						→		
				2年	←						→		
SGH クラブ （研究班、ディベート班、フランス語班）				←									→
研究の成果発表 地域と連携した課題研究の実践				←									→

(2) 実績の説明（主な取組）

ア グローバル基礎（１年）での課題研究 <地域課題研究>

(ア) 「先輩と語るグローバル社会の未来・コロナウイルス感染症とわたしたち」

- ① 日時 令和2(2020)年7月2日(木)
- ② 参加者 卒業生8名
- ③ 高校1年153名
- ④ 内容 高校生の時に行っていた課題研究の概略や研究の仕方等を卒業生から学んだ。

(イ) 「地域リーダースシンポジウム」および「交流会」

- ① 日時 令和2(2020)年9月3日(木) 6、7限目および放課後
- ② 場所 本校1年各教室、選択教室4
- ③ 参加者
領域1 災害・公害からの復興・・・玉井 成美 氏(佐野からあげ協会会長 なるねこ店長)
領域2 自然・生命(医療)・・・飯郷 雅之 氏(宇都宮大学農学部教授)
領域3 食料・エネルギー・水・・・中里 聡 氏(中里建設(株) 代表取締役)
領域4 環境・経済・法律・・・吉川 千福 氏(株式会社吉川油脂 代表取締役)
領域5 まちづくり・コミュニティ・・・吉澤 章裕 氏(空港サービス株式会社 代表取締役
葛生ジュニアリーダースクラブ代表)
領域6 教育・人権・文化・・・中山 昌樹 氏(認定こども園あかみ幼稚園 理事長)
- ④ 対象 高校1年、153名
- ⑤ 内容 持続可能な社会の実現に向けて実際に地元で活動をしている地域のリーダーの方々を招いてシンポジウムを行い、直接、活動内容等について話を伺い、課題研究のテーマ設定のヒントとした。

(ウ) 高1フィールドワーク

- ① 日時 令和2(2020)年12月10日(木)
- ② 対象 高校1年153名
- ③ 内容 各自の研究テーマに基づき現地調査、インタビュー、資料収集などを実施した。
- ④ フィールドワーク先
 - a 【食料・エネルギー・水】 【まちづくり・コミュニティ】 36名
栃木県芳賀郡茂木町もてぎプラザ等へのフィールドワークを実施し、産業振興、街づくりに関する講話を実施した。
 - b 【自然・生命】 【人権・教育・文化】 37名
国際医療福祉大学(大田原市)へのフィールドワークを実施後、トコトコ大田原にて 濱野 将行氏(一般社団法人えんがお 代表理事)ミニ講演会を行った。
 - c 【災害・公害からの復興】 【まちづくり・コミュニティ】 37名
(株)吉川油脂(佐野市飛駒町)、桐生市の織物関連遺産(のこぎり屋根工場群)等へフィールドワークを実施し、奈良孝太郎氏らによるシンポジウムを実施した。
 - d 【環境と経済・法律】 【人権・教育・文化】 【災害・公害からの復興】 41名
栃木県庁・フードバンクうつのみや・とちぎボランティアネットワーク(宇都宮市埴田)、栃木県国際交流協会(宇都宮市本町)等へのフィールドワークを実施した。

(エ) グローバル化に関する講演会及びワークショップ

- ① 日時 令和2(2020)年12月11日(金) 16:10～17:30
- ② 場所 本校
- ③ 指導助言者 キャリアコンサルタント 佐山 曜 氏
- ④ 対象 高校1、2年 27名
- ⑤ 内容 グローバル化の進む現代社会におけるキャリア形成について理解を深め、将来の自己のあり方生き方についてワークショップを通して考えた。

(オ) 課題研究中間報告会及び講演

- ① 日時 令和2(2020)年12月12日(土) 8:30～11:30
- ② 場所 本校
- ③ 指導助言者 投資アナリスト、冒険家 町田 健登 氏
- ④ 対象 高校1年 153名
- ⑤ 内容 12月10日実施のFWのまとめと発表を行い、講演を実施した。

(カ) 医療に関する講演

- ① 日時 令和2(2020)年12月28日(月) 10:00～11:30
- ② 場所 本校
- ③ 講師 日光市立湯西川診療所長、NPO法人「そらいろコアラ」代表理事
小児科医 増田 卓哉 氏
- ④ 対象 高校1、2年 20名
- ⑤ 内容 小児科医として勤務する傍ら、ボランティアとしてドメスティック・バイオレンスや虐待、貧困に直面した子どもたちの支援に関わっている講師の話聞き、社会問題解決のあり方を学んだ。

(キ) 課題研究発表会

- ① 日時 令和3(2021)年2月2日(火)、3日(水) 5～7限目
- ② 場所 本校(6会場)
- ③ 対象 高校1年 153名
- ④ 内容 1年生全員が総合的な探究の時間に行った課題研究の発表をし、ループリックによって他者の評価を行った。

(ク) SGH 成果発表会

- ① 日時 令和3(2021)年3月3日(水)
- ② 場所 本校体育館
- ③ 対象 高校1年 153名、高校2年 160名
- ④ 内容 学年と SGH クラブの代表者がステージ発表を実施し、代表を含む生徒全員がオンラインでポスター展示及び投票を行う。

(ケ) 海外グローバル研修(カナダ) 課題研究発表コンテスト(中止)

イ グローバル応用(2年)での課題研究 <異文化研究>

(ア) SGH リレー講座(中止)

(イ) 地域リーダーとの交流会

- ① 日時 令和2(2020)年9月3日(木) 放課後
- ② 場所 本校選択3教室
- ③ 参加者 本校「地域リーダースシンポジウム」講師
- ④ 対象 希望者
- ⑤ 内容 生徒は自分の課題研究に関する指導をシンポジストから受けた。

(ウ) 高2課題研究中間発表会

- ① 日時 令和2(2020)年9月18日(金)、25日(金)、10月2日(金)、16日(金) 7限目
- ② 場所 本校(6会場)
- ③ 対象 高校2年160名
- ④ 指導助言者 各領域担当者
- ⑤ 内容 全生徒が中間発表を実施した。他の生徒はルーブリックを用い評価を行った。質疑の時間では、他の生徒から質問を受け、各担当の指導者から助言を得た。

(エ) 高2課題研究発表会

- ① 日時 令和3(2021)年2月2日(火)、3日(水) 5～7限目
- ② 場所 本校(6会場)
- ③ 対象 高校2年160名
- ④ 内容 生徒全員が課題研究のまとめとして発表を実施した。質疑応答を行った。

(オ) SGH リレー講座 (中止)

(カ) 台湾グローバル研修 (中止)

(キ) SGH 成果発表会

- ① 日時 令和3(2021)年3月3日(水) 8:45～15:35
- ② 場所 本校体育館
- ③ 対象 高校2年160名
- ④ 内容 学年とSGHクラブの代表者がステージ発表を実施し、代表を含む生徒全員がオンラインでポスター展示及び投票を行う。

ウ グローバル発展(3年)での課題研究 <キャリアパス探求>

(ア) オリエンテーション

- ① 日時 令和2(2020)年6月11日(木) 7時限
- ② 場所 本校3年各教室
- ③ 対象 高校3年144名
- ④ 内容 キャリアパス探求の進め方についてオリエンテーションを実施した。

(イ) キャリアパス探究レポート提出

- ① 日時 令和2(2020)年7月22日(水) 7時限
- ② 場所 本校3年各教室

- ③ 対象 高校3年144名
- ④ 内容 シンカ宣言の提出

エ 研究成果の校外での発表・参加等

(ア) とちぎの高校生課題研究等発表会（県主催）

- ① 日時 令和2(2020)年11月9日（月）
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ海外班（6名）
- ④ 内容 県内数校が課題研究等を発表した。佐野高校はSGH クラブ海外班の2グループがマレーシアセント・テレサ校等との国際協働研究を英語で発表した。

(イ) 第3回全国高校生SRサミット～FOCUS～（立命館宇治高等学校主催）

- ① 日時 令和2(2020)年11月14日（土）、15日（日）
- ② 場所 本校PC室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ海外班、国内班（計15名）
- ④ 内容 他校の高校生等及び日本に留学中の国際学生（大学）とSDGsに関わる各校のプロジェクトの課題について協働で取り組み、その解決策を検討することを通して、互いに学び高め合う機会とする。各分野に専門性を持つ社会人の方もメンターで入った。

(ウ) 本県水俣高校合同SGHクラブ研究班（国内）中間発表

- ① 日時 令和2(2020)年12月18日（金）
- ② 内容 熊本県立水俣高等学校と合同で中間発表を行った。詳細は10ページ参照

(エ) 第3回全国高校生フォーラム（文科省主催）

- ① 日時 令和2(2020)年12月20日（日）13:00-16:00
- ② 場所 本校PC室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ海外班（5名）
- ④ 内容 マレーシアFWを含む研究内容を英語で発表を行った。

(オ) 2020年度ぼうさい甲子園（毎日新聞社など主催）

- ① 日時 令和3(2021)年1月17日（日）
- ② 場所 オンライン
- ③ 参加者 本校生徒会
- ④ 内容 優れた防災教育を顕彰するぼうさい甲子園で、本校が「しなやかwithコロナ賞」に選ばれた。新型コロナウイルスの感染拡大で、各校が文化祭を中止する中、生徒会を中心に感染防止策を徹底して開催し、成功させたことが評価された。

(カ) 第3回全国高校生SRサミット～AFTER FOCUS～（立命館宇治高等学校主催）

- ① 日時 令和3(2021)年2月13日（土）
- ② 場所 本校PC室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ海外班、国内班（計12名）
- ③ 内容 SRサミット以降のその後の研究成果を全国の高校生と互いにシェアし合った。

(キ) CIEC コンピュータ利用教育学会 U-18 の部 研究発表

- ① 日時 令和3(2021)年3月21日(日)
- ② 場所 本校PC室、オンライン
- ③ 参加者 SGHクラブ海外班(3名)
- ④ 内容 マレーシアのPC機器を利用した国際協働研究の成果を発表する。(日本語)

(ク) 第3回 WWL×SGH 探究甲子園 日本語プレゼンテーション部門 発表

- ① 日時 令和3(2021)年3月21日(日)
- ② 場所 本校PC室、オンライン
- ③ 参加者 SGHクラブ海外班(3名)
- ④ 内容 マレーシアの高校生との国際協働研究の成果を発表する。(日本語)

(ケ) 日本地理学会春季学術大会 2021 高校生ポスターセッション 発表

- ① 日時 令和3(2021)年3月26日(日)
- ② 場所 本校PC室、オンライン
- ③ 参加者 SGHクラブ国内班(3名)
- ④ 内容 国内班3班のうち1つが研究成果をオンラインで発表する。(日本語)

オ SGHクラブ研究班(海外)

(ア) マレーシアのセント・テレサ・セカンダリー・スクールとの国際協働研究

- ① 対象 SGHクラブ15名
- ② 場所 本校英語演習室、PC室、オンライン
- ③ 期間 令和2(2020)年6月3日(水)～令和2(2020)年12月11日(金)
- ④ 実施方法 セント・テレサ校から3名、本校から3名のグループを5つ作成し、SNSやweb会議アプリを用いて長期間に渡りSDGsに関する協働課題研究を実施した。

協働研究実施のための主な行事

No.	日にち	内 容	対象
1	6/3(水)	宇都宮大学農学部大久保達弘教授オンライン講座① 「マレーシア・サラワクの地理・民族」	22名
2	6/17(水)	宇都宮大学農学部大久保達弘教授オンライン講座② 「マレーシア・サラワクの教育・自然」	19名
3	6/25(木)	本校非常勤講師赤堀雅人氏講座「研究データの扱い方」	23名
4	7/17(金)	セント・テレサ校との国際協働課題研究開始セレモニー	15名
5	7/20(月)	東京海洋大学教授小松俊明氏オンライン講座 マレーシア概論	22名
6	7/29(水)	アジア開発銀行中根誠人氏オンライン講座「アジア銀行とそのミッション」	25名
7	9/9(水)	ニューヨーク リセ・ケネディ元校長石塚義昭氏講演	22名
8	11/6(金)	SGHクラブ研究班(海外) 校内中間発表(助言者:宇都宮大学農学部教授大久保達弘氏)	29名
9	12/10(木)、 11(金)	セント・テレサ校との国際協働研究最終発表会(助言者:東京海洋大学教授小松俊明氏、宇都宮大学農学部教授大久保達弘氏)	19名

(イ) JICA 筑波訪問

- ① 日時 令和2(2020)年8月4日(火) 9:00-16:00
- ② 場所 JICA 筑波訪問
- ③ 対象 SGH クラブ研究班 22 名
- ④ 内容 JICA の事業やSDGs について学んだ。

(ウ) スリランカ・小学校との交流

- ① 日時 令和2(2020)年7月14日(火) 16:00 - 17:00、9月19日(金) 16:00 - 17:00
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 対象 SGH クラブ研究班 11 名
- ④ 助言者 宇都宮大学 栗原俊輔 準教授

(オ) 内容 スリランカ・ヌワラエリア県の小学生 12 名と宇都宮大学生 5 名をオブザーバーに迎え、交流を行った。

(エ) ベトナム FPT 高校との国際交流会

- ① 日時 令和2(2020)年9月19日(土) 14:00-16:00
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 対象 SGH クラブ研究班 14 名
- ④ 内容 学校紹介を行い、グループに分かれて SDGs に関するディスカッションを英語で行った。

カ SGH クラブ研究班 (国内)

(ア) 環境 NP0 法人エコロジーオンライン上岡裕氏講義①

- ① 日時 令和2(2020)年6月19日(金)
- ② 場所 本校英語演習室
- ③ 対象 SGH 研究班 (国内) (16 名)
- ④ 内容 佐野から全国へ、そして世界へと情報発信していく方法および本校のロールモデルの田中正造型グローバルリーダー育成について学んだ。

(イ) NP0 法人エコロジーオンライン上岡裕氏講義②

- ① 日時 令和2(2020)年7月13日(月)
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ研究班 (国内)、フランス語班 (25 名)
- ④ 内容 上岡裕氏とマダガスカルで支援活動を行っている浅川日出男氏によるオンライン講座を実施、マダガスカルの現状と日本の支援活動について学んだ。

(ウ) 熊本県水俣高校合同 SGH クラブ研究班 (国内) 中間発表

- ① 日時 令和2(2020)年12月18日(金)
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ研究班 (国内、海外) 等 24 名
- ④ 助言者 宇都宮大学国際学部教授 松金 公正氏
栃木県教育委員会高校教育課指導主事 吉川知宏 氏
[水俣高校 助言者] 古賀 実 氏 (熊本県立水俣高等学校 SGH アドバイザー (水俣市

企画課水俣環境アカデミア所長)

- ⑤ 内容 国内の社会課題に取り組んでいる SGH クラブ研究班 (国内) が水俣高校との合同中間発表を行った。それぞれの学校の生徒がお互いの発表に対して、質問や助言を行ったのち、助言者より適切なアドバイスがあった。

(エ) オンライン勉強会ーみんなの課題と 1F 廃炉及び SGH クラブ国内班最終発表

- ① 日時 令和 3 (2021) 年 2 月 22 日 (月)
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ研究班 (国内・海外)
- ④ 講師 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 国際グループ
1F 廃炉の説明 松浦 奏太 氏、ファシリテーター 滝川 研作 氏
- ⑤ 内容 国内の社会課題に取り組んでいる SGH クラブ (国内班) が今年度の研究のまとめとして最終発表を行った。また、原子力損害賠償・廃炉等支援機構の講演を聞き、廃炉問題に関して知識を深め、問題意識を向上させた。

キ SGH クラブディベート班

(ア) 文部科学省後援 PDA 全国高校即興型ディベート合宿・大会 2020

- ① 日時 令和 2 (2020) 年 8 月 8 日 (土)、9 日 (日)
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブディベート班 (10 名)
- ④ 内容 即興型のディベートを行い、生徒 2 名がベスト POI 賞を受賞。また、1 年生チームは 7 戦 6 勝、2 年生チームも強豪校を破るなど、好成績を残した。

(イ) 第 12 回 D-1 英語ディベート選手権大会兼第 15 回全国高校生英語ディベート大会栃木県予選大会

- ① 日時 令和 2 (2020) 年 11 月 3 日 (火)
- ② 場所 栃木県立宇都宮高等学校
- ③ 参加者 SGH クラブディベート班 (23 名)
- ④ 内容 準備型のディベートの試合を行い、県大会 A リーグ学校別 3 位となり、全国大会への出場権を獲得した。

(ウ) 文部科学省後援 第 6 回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会

- ① 日時 令和 2 (2020) 年 12 月 19 日 (土)、20 日 (日)
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブディベート班 (3 名)
- ④ 内容 メンバーの一人がベストディベーター賞を受賞するなど、即興でディベートの試合を行った。また、予選全勝し全国ベスト 8 に入賞した。

(エ) 第 15 回全国高校生英語ディベート大会

- ① 日時 令和 2 (2020) 年 12 月 26 日 (土)、27 日 (日)
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブディベート班 (4 名)
- ④ 内容 準備型のディベートで、予選を 4 勝 1 敗 1 分けし、全国大会で 5 位に入賞することができた。

(オ) 第10回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯栃木県大会

- ① 日時 令和3年(2021)年1月31日(日)
- ② 場所 各自自宅、オンライン
- ③ 参加者 SGHクラブディベート班(23名)
- ④ 内容 1人5分の持ち時間がある難易度の高い即興型のディベート大会で優勝。全国大会への出場権を獲得した。

(カ) 栃木県英語ディベート冬季大会

- ① 日時 令和3年(2021)年3月13日(土) 予定
- ② 場所 各自自宅、オンライン
- ③ 参加者 SGHクラブディベート班(23名)
- ④ 内容 今年度最後の県大会で、即興型のディベートを行う。

(キ) 第10回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯

- ① 日時 令和3(2021)年3月21日(日)、22日(月) 予定
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGHクラブディベート班(3名)
- ④ 内容 1人5分(決勝トーナメントは7分)の持ち時間がある即興型ディベート大会。上位入賞校には、副賞として海外研修等が贈られる。

ク SGHクラブフランス語班

(ア) 東日本高校生フランス語暗唱コンクール参加

- ① 日時 令和3(2021)年2月26日(金) 13:00~17:00
- ② 場所 本校英語演習準備室、オンライン
- ③ 参加者 フランス語班(2名)
- ④ 内容 文学作品の一遍を暗唱する。

7 目標の進捗状況、成果、評価

本校では、SGH活動で4つの仮説を以下の6つの資質・能力を育成することを通して「田中正造型グローバル人材の育成」を目指している。

(1) 仮説ごとの進捗状況

ア(仮説1)「グローバル探究プログラム」により高い志をもった、将来のグローバルリーダーを育成するとともに、将来のキャリアパスを描くことができる。

グローバルリーダーの人物像を提示しアンケートの実施した。次のものがSGHの人物像となる。アンケートは自己評価と他者への評価を行った。

生徒に提示した人物像

「毎日の生活の中で問題を感じ、特に問題を感じることに 대해서는その解決策について考え、場合によっては仲間とチームを組んで、調べ、わかったことなどに関してまとめて発表することができる」

成果の検証評価には本校高校1年生、高校2年生、高校3年生それぞれ1月に実施した生徒対象アンケートを利用した。このアンケートは、本校が描くSGHリーダー像に関して5つの質問があり、

その肯定的な回答の割合（かなり当てはまる、ある程度当てはまる）の割合をまとめ、生徒の SGH リーダー像に関する事業への評価とした。その結果が次の図表 1 である。

図表 1 SGH リーダー像（SGH 3～5 期生）

	高 1 (2021 年 1 月)	高 2 (2021 年 1 月)	高 3 (2021 年 1 月)	高 3 と高 1 の 比較
1 SGH 人物像に関して入学時を振り返り自己を評価	29%	30%	37%	8%
2 SGH 人物像に関して入学時を振り返り他者を評価	81%	73%	67%	-13%
3 SGH 人物像に関して現在の自己を評価	56%	59%	71%	15%
4 SGH 人物像に関して現在の他者を評価	86%	84%	86%	1%
5 現在ローカルとグローバルな視点を持っているか（自己）	61%	62%	70%	9%

3 学年とも入学時には他者に対しての評価が高く、自己に対しての評価が低くなっているが、学年が進むにつれ、他者に対しての評価が低くなっている。同一学年の比較ではないが、他者に対して、より現実的な観点から人物を見ることができるようになっているのではないかと。そして、特筆すべき点としては、佐野高校 SGH の人物像に学年が進行するにつれ、自己評価が大きく上がっているところである。1 学年から 3 学年にかけてこの探究プログラムを経験したことが、自己肯定感につながっていると思われる。また、キャリアパスに関しても国公立大学への AO 及び推薦合格者数を見ると、大いに数を延ばしており総合的な探究の時間等で行っている課題研究がうまくむすびついていると言える。（図表 2）

図表 2 AO 推薦入試合格数の推移（国公立大学のみ）

卒業年月	2014. 3 卒	2015. 3 卒	2016. 3 卒	2017. 3 卒	2018. 3 卒	2019. 3 卒	2020. 3 卒	2021. 3 卒
SGH 期生				SGH アソ シエイト	SGH アソ シエイト	SGH1 期 生	SGH2 期 生	SGH3 期 生
AO 推薦入試合格者数（名）	9	11	8	6	6	16	27	20

イ（仮説 2）生徒全員が課題研究に取り組み、高大連携や高校連携、関係機関との連携などを効果的に取り入れることにより、生徒は自らの殻を破り、チャレンジ精神を身につけるとともに、課題研究の質を飛躍的に高めることができる。

このことに関しては、次の 3 つのことが顕著なものとしてあげられる。

（ア）全校生徒が課題研究に取り組んでいる

1 学年では地域課題研究、2 学年では異文化研究、3 年ではキャリアパス探究ということで本校生全員が総合的な探究の時間に「探究プログラム」に取り組んでいる。

（イ）宇都宮大学、東京海洋大学、帝京大学、熊本県立水俣高校、JICA 等との連携を実施している今年度は実施できなかったものもあるが、生徒全員が行っている課題研究の中間発表を宇都宮大学と連携し、2 学年は本校で実施、1 学年は宇都宮大学で実施し、大学の教員から指導を受ける機

会を得た。グループごとの発表を実施し、直接評価を得られ最後の発表会に向けた研究の向上に役立てることができた。ただし、今年度は残念ながら中止せざるを得なかった行事もあった。

しかし、主に SGH クラブになるがオンラインを利用して講座や発表会を実施することもできた。本校の SGH クラブの特徴としてフィールドワーク（FW）を行う際、自分たちの研究をプレゼンし連携先の専門家等から意見をもらうことを常としている。そこで直接得られた見識は大変貴重なものとなっている。以下に5年間で実施した主なものを提示する。

- ① 宇都宮大学との連携による1学年中間発表（於 宇都宮大学）
 - ② 宇都宮大学との連携による2学年中間発表
 - ③ 宇都宮大学、足利大学、東京海洋大学等との連携による留学生・留学経験者指導
 - ④ 佐野市、宇都宮市、茂木町等との連携によるFW
 - ⑤ 2学年全員による台湾グローバル研修
 - ⑥ SGH クラブ研究班（国内）による水俣（JNC 株式会社、水俣市立水俣病資料館、国立水俣病情報センター等との連携）、福島（2回、福島県立ふたば未来学園高校、福島大学、檜葉町役場、原子力損害賠償・廃炉等支援機構等との連携）、北海道（佐呂間町役場との連携）等へのFW
 - ⑦ SGH クラブ研究班（国内）による水俣高校との合同中間発表会
 - ⑧ SGH クラブ研究班（海外）による台湾（3回実施、迪化下水処理場、台北慈濟病院、新故郷文教基金會、入郷棚田保全協議会、国立暨南国際大学及び同附属高校等との連携）、マレーシアへのFW（マレーシア国立サラワク大学及びセント・テレサ中等学校へのFW等）
 - ⑨ SGH クラブ海外班によるマレーシア、セント・テレサ中等学校との国際協働研究（5か月間）、ベトナム FPT 高校との交流及びディスカッション
 - ⑩ 学年希望者による海外グローバル研修（カナダ）でのFW（UBC、クリスチャン・ユニティ校、ラングレー校等との連携）
 - ⑪ 筑波大学附属坂戸高校主催 ESD シンポジウム参加
- （ウ）難しい社会問題を発見し、解決方法に取り組み、大会や学会等に参加し、課題研究の質を向上させている

SGH 全国高校生フォーラムを初め、この5年間で様々な大会や学会等に取り組んできた。以下に主なものを提示する。

- ① SGH 全国高校生フォーラム
- ② 立命館宇治高校主催全国高校生 SR サミット FOCUS 及び AFTER FOCUS
- ③ CIEC（コンピュータ利用教育学会）
- ④ 日本地理学会
- ⑤ WWL・SGH×探究甲子園
- ⑥ Change Makers Award チーム部門
- ⑦ 第4回福島第一廃炉国際フォーラム

このように大学等と連携し、様々なレベルの高い大会や学会に参加したり、本校主催の合同発表会や研究を実践することで課題研究の質をあげている。

ウ（仮説3）すべての教科でのアクティブラーニング型授業の導入や教科の SGH 化、学校設定科目 CTP(Critical Thinking Program)の実践、英語によるコミュニケーション能力の向上、評価方法の研究開発等を進めることで、本校のグローバル教育全体が『シンカ（進化、深化、真価、Thinker）』する。

このことに関しては、次の4つが主に提示される。

(ア) 教員からのアクティブラーニング実施記録

毎年、教員はアクティブラーニング実施記録の提出が求められている。協働学習の要素を取り入れ、グループで協働して結果を考察し発表するなど、単に意見交換にとどまらない授業が多く展開されている。また、教員研修が行われさらに教員はアクティブラーニングの理論を学び、実践を重ねている。

(イ) CTP の実施（教科横断型学習、日本語ディベート、英語ディベートもしくはプレゼンテーション）

1 学年の学校設定科目である CTP において、1 学期は教科横断型学習を実践し、広告の文章を批判的に読む等、実社会に対応できる知識と技能の習得を目指した。2 学期は、グループによる日本語ディベートを行い、1 学期で学んだ批判的思考力を用いながら、論理的思考力を高めた。3 学期は、英語によるディベートを実施し、さらに批判的思考力を強化しながら、英語力につながるよう実践してきた。ただし、最終年度は、年度当初の休業による影響のため実施できなかった。

(ウ) 英語科との連携（プレゼンコンテスト、海外 G 課題研究発表会等）

本校 SGH の大きな行事の 1 つである海外グローバル研修発表会に向けて、本校英語科と連携し、各グループのプレゼンテーションを外部に対して発表してきた。ネイティブによるプレゼン研修を含むプログラムを実施し、その成果を発表してきた。また、昨年度の台湾グローバル研修において、本校英語科の指導のもと準備を重ね、2 学年全員が英語のプレゼンを高雄女子高級中学において実施することができた。次の表は、高雄女子高級中学でプレゼンを行った平成 30 年度入学生（SGH3 期生、現 3 学年）とその前年の英語のプレゼンを行わなかった平成 29 年度入学生（SGH2 期生、卒業生）との比較である。平成 30 年度入学生は高校 1 年時の英語で伝える力に対し、肯定的に回答した者がもともと少ないこともあるが、1 学年と 3 学年を比較すると、前年度に比べ大きな伸びを見せている。また、今年度は、2 学年は台湾グローバル研修が実施されないこともあり、先に行われた 1 学年と同様に、2 学年も英語科主催のプレゼンコンテストを実施した。

図表 3 英語で伝える力

	高 1	高 2	高 3	伸び率
平成 29 年度入学生（SGH2 期生）	43%	40%	45%	2%
平成 30 年度入学生（SGH3 期生）	28%	48%	54%	26%

(エ) ルーブリック開発（評価項目の検討、目標設定等）

ルーブリックの主な使用は、中間発表会や領域別発表会となるが、週一回行っている教員の SGH コア会議で検討され、毎年改善を重ねてきた。目標となるレベル 4 の設定は大学レベルとしてあり、生徒たちが目標とすべきものとなっている。生徒たちはそれを使うことで、他者を評価するだけでなく、自分たちの最終目標を確認することができる。ただし、今年度の場合、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、課題研究をグループ研究から個人研究としたため、ルーブリックの「協働して課題を解決する力」等を変更せざるをえなかった。また、ルーブリックに関しては、教員が作ったものを使用しているわけだが、生徒がルーブリックに関心を持ち、自分たちでつきたい力を考えレベル分けし、自分が作ったルーブリックで自己評価を行っている者が出てきた。非常に好ましい傾向である。

エ（仮説４）近隣の小学校や中学校、県内の高校、大学、関係団体等と連携し、グローバル教育を推進する拠点として、本県のグローバル教育を牽引する。

小学校に関しては、出前授業を中心に連携をはかってきた。環境教育の実践、ESD の実践（SDGs を取りあげたもの）、英語教育の実践など実際に授業の中で高校生が小学生に教えるという貴重な機会を持つことができた。また、県内の高校とは本校主催の英語ディベートの研修会や大会を開催し、連携をはかりながらリーダー的役割を果たしてきた。特に、県内の南部の高校へのディベートの普及には大いに貢献したと言える。また、課題研究においても、とちぎの高校生課題研究等発表会に回数を多く参加し、県内に課題研究の実践を広めている。今年度は２グループが発表した、その２グループともマレーシアのセント・テレサ校との協働研究を英語で発表している。

この５年間で実践してきた主なものは次のようである。

- ① 佐野市立佐野小学校（環境教育出前授業）
- ② 佐野市立天明小学校（SDGs 出前授業、小学校英語出前授業）
- ③ 栃木県南部の数校（本校主催の英語ディベート研修及び大会）
- ④ とちぎの高校生課題研究等発表会
- ⑤ 全国高校生フォーラム
- ⑥ 立命館宇治高校主催全国高校生 SR サミット FOCUS 及び AFTER FOCUS
- ⑦ （栃木県総合教育センター主催）総合的な探求の時間部会実践発表（教員）

（２）中間評価について

中間評価に関しては大きく３つの指摘をいただいた。グローバル人材育成の積み上げ方に関しては、高評価をいただいたが、学年間の学びのつながりの明確化とその検証、そして、グローバルリーダーのロールモデルが描けたのかという点では課題があった。以下の取り組みを示す。

ア グローバル人材育成 に関して

グローバル人材の育成の積み上げ方は次のように評価を得ているので、実践を継続している。

「田中正造をロールモデルとしてグローバル人材像を具体的に提示し、１学年ではローカルな地域に目を向け、２学年ではグローバルな視点を持ち課題研究を続け、３学年では研究と生徒自身のキャリアを結びつけて研究をまとめることで、社会に貢献できる人材を育てている。さらに、統計の専門家の協力を得て、事業成果の分析を継続的に実施してきた」

イ 学年間の学びや指導のつながりの明確化と検証

具体的には、「１年生と２年生の学びや指導のつながりを明確にし、検証すること、及び３年生の個人研究（自由研究）について、SGH の学びの総合化・統合化という視点から指導計画を設計することが望まれる」であった。

これに対しては、次のように考えている。１年次に地域課題に取り組んだことをベースに他の地域ではどうなのかという視点で２年時の異文化研究を実施している。１年生は２年生の中間発表を見学したり、成果発表会・ポスターセッション等見学することで、課題研究に対して意識を向上させ、発展的な課題に取り組む。３年次はその取り組んだものを自分の進路と照らし合わせ、研究を補いながらまとめていき、キャリアパスを確立していく。仮説１で示したように、大学入試では自分が取り組んだ課題研究を使って総合選抜や推薦に挑戦し合格する者が増加傾向である。

学年のつながりの一例としては、１年次に「クリケットで佐野市を活性化」と題し、まちおこし

の研究をした者が、2年次では「クリケット×多文化共生 ～佐野市から始まるクリケット革命～」と題し、国際交流を活性化させるべく、外国からクリケットチームが来ると知ると、本校に招こうと働きかけ、実際に招いて交流を行う中心人物となるなど実践を行いながら多文化共生への道を研究していった。さらに、3年次では、今まで研究を自分の進路と関連させ、さらに大学の教員等の文献にあたり、その研究が自分の一生の研究となるよう結び付けていき、大学でもまちおこしを実際に研究できるような学部に進学した。

また、今年度の3年の具体的な指導計画①、②を次に示したい。

指導計画①

ステージ	内 容
Stage 1	課題研究（1年地域課題研究・2年異文化研究）を振り返る①～③
Stage 2	「学びの計画書」の作成、キャリアパスの探究 ①～③
Stage 3	「シンカ宣言」の作成 ①～③

指導計画②

	日 程	内 容
1	6/4	オリエンテーション①
2	6/11	オリエンテーション②
3	6/18	Stage 1-1 課題研究（1年地域課題研究・2年異文化研究）を振り返る①
	6/25	〃 1-2 〃 ②
4	7/2	〃 1-3 〃 ③
5	7/16	Stage 2-1 学びの計画書・キャリアパスの探求 ①
6	7/30	〃 2-2 〃 ②
7	9/3	〃 2-3 〃 ③
8	9/10	Stage 3-1 シンカ宣言 ①
9	9/17	〃 3-2 〃 ②
10	9/24	〃 3-3 〃 ③
11	12/17	まとめアンケート

このように、1年生の地域課題、2年生の異文化研究、3年のキャリアパス探究は学び、指導ともに「グローバル探求」につながっているのである。

ウ グローバルリーダーのロールモデルが描けたのかなどの総合的な評価・達成状況

3つ目の指摘は、「個別の力の育成状況以外に、例えば「グローバルリーダーのロールモデルが描けたのか」などの総合的な評価を行うことも必要であり、2年間の事業実施により、当初の研究開発の仮説や課題の解決・達成状況がどのような状況にあるのか、総括することが望まれる」というものであった。今年度のものデータであるが、仮説1の説明で示したように本校生は学年が進行するにつれ、グローバルリーダーの人物像を入学時と比較しさらにしっかりと描いていると言える。

8 5年間の研究開発を終えて

(1) 教育課程の研究開発の状況について

ア 指定後のグローバル・リーダーの育成に資する教育課程における変化、工夫これまでの取組

本校の教育課程において、課題研究は1学年から3学年の総合的な探究の時間にそれぞれ1単位ずつ実施されている。1学年と2学年の課題研究はグループ単位で行っており、グループごとに担当者がつく。担当者は、ロードマップに従い、リサーチクエッションや仮説の設定等研究に関しアドバイスをしていく。生徒は情報を得たり、研究のデザインをしていく時、本校の学校設定科目 CTP で培った批判的思考力や論理的思考力を用いることになる。総探の時間と CTP の授業とアクティブラーニングを実施している他の科目の相乗効果により、本校の探究プログラムが成り立っている。また、先進的な研究をさらに行うために SGH クラブがその活動の場となり、発表会等を通して全校生徒に成果を伝えている。

イ 先進的な課題研究等の実績を踏まえたグローバルリーダーの育成に資する発展的な実践

1つは総学の時間に行っていた課題研究をさらに深めようとした例である。本校は海外フィールドワークとして台湾に3年連続で訪問したが、3年目の生徒たちは、先輩たちの研究にさらに自分たちで国内のフィールドワーク（栃木県茂木町入り郷地区）を実践し、東アジアにおける中山間地域の再生、復興、活性化は可能なのかをテーマに研究を行った。研究の手法としては参与観察法を用い、生徒が1つ1つの組織の中の一員として参加しながらデータを収集していった。生徒たちは研究の成果をいくつかの場で発表したもので、下記に示す。

- 1 研究成果発表会（茂木町ふみの森、茂木町14地区代表者の前で）
- 2 筑波大学附属坂戸高校主催 ESD シンポジウム
- 3 第2回 SGH 全国高校生フォーラム
- 4 第3回関東甲信越静地区高校生課題研究発表会（1位）
- 5 日本地理学会 高校生ポスターセッション部門

さらに、先進的な事例としては今年度海外への渡航ができなかったことにより、オンラインでの国際協働研究を実施した。7月から12月の5か月間の長期の研究となったが、生徒たちは SNS や web 会議アプリを使い、マレーシア・クチンにあるセント・テレサ校とグループでの協働研究を行なった。その研究期間には、マレーシア在住歴11年の本校アドバイザーの東京海洋大学教授小松俊明氏やアジア銀行のシニア・エコノミストの中根誠人氏等の講義を受けている。さらに、フィリピンの FPT 高校と交流とディスカッションを英語を用いて行っている。研究に関してのやり取りは英語で行うため、苦戦している時も多かったが、中間発表を得て、最後の協働研究合同発表会で無事発表することができた。内容は、教育関連でルーブリックを扱ったものや、海洋プラスチックごみを扱ったもの、医療問題を扱ったものなど5つのトピックがあった。このように、総合的な探究の時間から始まったものが、世界の問題解決にグローバルに展開し発展的な事例となっている。

(2) 高大接続の状況について

高大接続の状況については次の10のポイントを示す。

①グローバル教育統括アドバイザー

引き続き東京海洋大学教授小松俊明氏と宇都宮大学教授・学長補佐松金公正氏に依頼する。

②リレー講座

台湾グローバル研修に関する講座など引き続き宇都宮大学松金公正教授等に依頼する。

③教員研修（一昨年の例）

4月：宇都宮大学 松金公正 教授から課題研究の入り口指導を中高全教職員が受けた。

10月：千葉大学 高橋佑真 助教から課題研究の出口指導（ポスター作成等）を受けた。

⑤留学生による指導

宇都宮大学、足利大学から留学生を招き、1年生の課題研究班に入り指導を受ける。

⑥FW についてのワークショップ

東洋大学柏崎梢助教によるワークショップの実施。

⑦クリシンテスト

帝京大学若山昇准教授作成の上記テストを受け、分析、アドバイスをいただく。

⑧大学の授業、活動への参加

⑨足利大学のフランス語圏からの留学生を招聘

⑩海外研修先の大学との連携

国内の大学の授業や企画にさらに参加し連携を強化したい。また、マレーシアでの訪問先の大学でもプレゼンテーション等を実施したい。基本的には良好であるのでこれまでの取組を継続していきたい。

(3) 生徒の変化について

アソシエイト校から SGH 校となり 5 年目をむかえるわけであるが、次の 2 つの表が示すように、本校が伸ばそうとしてきた力 6 つのうち 5 つが 3 学年の 1 月の時点でほぼ 8 割のものがそのような力をつけることができたと感じている。1 学年からの大きな変容が見て取れる。グローバルリーダーとして必要な力を徐々につけている。平成 30 年度入学生に関しては、特にグローバル社会に貢献する高い志については 1 学年の時と比較し、35%の増加が見られ本校の SGH 教育の成果と思われる。本校設定した 6 つの力のうち 5 つは大いに成果を挙げたと言える。ただし、英語で伝える力については、26%の増加を見せているものの 3 年次において 54%ものが肯定的な回答をしておらず、英語で自己のアイディア等を自信を持って伝えられると思っている者がまだ、少ないと言える。ただし、卒業時における CFER の B1~B2 レベルの生徒の割合は 28 年度では 15%であったが、令和元年度には 44%、令和 2 年度には 37%と増加傾向にある。

図表4 平成30年度入学生(SGH3期生)における6つの力の比較

佐高 SGH が伸ばしたい 6 つの力	高 1 (2018 年 4 月)	高 2 (2020 年 1 月)	高 3 (2021 年 1 月)	伸び率
①課題を発見し向き合う力	60%	77%	77%	17%
②論理的・批判的に思考する力	62%	75%	79%	18%
③協働して課題を解決する力	62%	73%	78%	16%
④情報を発信する力	72%	79%	88%	16%
⑤英語で伝える力	28%	48%	54%	26%
⑥グローバル社会に貢献する高い志	45%	65%	80%	35%
			平均伸び率	21%

図表5 平成 29 年度入学生(SGH2期生)における6つの力の比較

佐高 SGH が伸ばしたい 6 つの力	高 1 (2018 年 4 月)	高 2 (2020 年 1 月)	高 3 (2021 年 1 月)	伸び率
①課題を発見し向き合う力	66%	76%	86%	19%
②論理的・批判的に思考する力	68%	74%	81%	13%

③協働して課題を解決する力	73%	76%	82%	9%
④情報を発信する力	78%	83%	91%	13%
⑤英語で伝える力	43%	40%	45%	2%
⑥グローバル社会に貢献する高い志	55%	63%	79%	24%
			平均伸び率	13%

図表 6卒業時における生徒の 4 技能の総合的な英語力として CEFR のB1～B2レベルの生徒の割合

年度	28 年度	29 年年度	30 年度	元年度	2 年
B1, B2 の割合	15%	35%	26%	44%	37%

今後の課題としては、評価の仕方として、生徒の変化をみとる評価の指標が生徒のアンケートに多くを依存していることが課題である。もちろん、評価の仕方としては、1 つの手法であるが課題を発見し向き合う力などベネッセのGPSアカデミック等を用いているが、さらに評価方法の検討がもとめられる。

(4) 教師の変化について

すべての教員が課題研究に携わっており、探究に対する考え方や指導法が徐々に浸透してきたと言える。1 学年では地域課題研究を行っているが、本校主催のリーダーズシンポジウムを初め地域人材の確保に各担当の教員が努めており、生徒のフィールドワーク先の開拓にあたるなどの動きを見せている。

課題研究に関する教師の課題としては、自分が生徒や学生の時に行っていたものと大きく違うため、戸惑いを見せている教員もあり、どのように研修を続けていったらよいのかさらに検討が必要である。すでに、研究の仕方やポスター作成の仕方などについても、この 5 年間の研修の中で実施してきたが、指導にあたり不安を軽減させる対策がさらに必要である。

(5) 学校における他の要素の変化について(授業、保護者等)

SGH 指定を受けて、アクティブラーニングを用いた指導が継続されており、保護者の評価も良好である。次の表は、1 学年から 3 学年の保護者へのアンケートで、肯定的評価（よくあてはまる、どちらかといえばあてはまる）の割合を年度ごとに示したものである。

図表 7 保護者による学校評価の変化

	H27	H28 (SGH 指定)	H29	H30	R1	R2
1 豊かな人間性の育成に努めている	87	88	90	89	93	92
2 生徒一人ひとりの進路実現に努めている	85	89	89	91	90	91
3 国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成に取り組んでいる	87	91	91	94	92	92
4 生徒の活動や実績を保護者や地域住民に熱心にPRしている	79	85	85	86	85	84
5 本校に自分の子を入学させて良かった	89	90	92	91	92	96

課題としては、アンケートに関して肯定的な回答の割合がかなり高くなっているが、生徒の活動や実績を保護者や地域住民に PR する場合、保護者が web 等を見るような対策が求められる。

(6) 課題や問題点について

ア 評価の継続的研究・開発

総探における生徒の発表の評価に用いているルーブリックは、継続的に研究・開発していく必要がある。

イ 課題研究の質の向上と実践

総探における生徒の課題研究には、多くの先行研究があるわけだが、多くの者がゼロに近い状態から始めている。先行研究の見つけ方、利用の仕方等さらに指導する必要がある。

コロナ禍の中、感染防止に配慮しながら SGH 指定後の活動を行っていくこととなる。財源的な障害もあるが、実際に足を運べない場合は、オンライン等のやり方を探る必要がある。今年度は、手探りの状態で始めたので、オンライン等の活用は一部では活発に行われていたが、総探のフィールドワークの代わりとしてのオンライン使用はそれほど多くなかった。オンラインでのインタビュー等がもっと手軽に使用できる環境を作りたい。

ウ 活動・行事の維持・改善

SGH 指定終了に伴い行事の見直しが行われる。SGH 関連の行事の教員への負担感がかなりあり、数年続けてきた行事でさえ実施に賛成でない者もいる。行事の負担感の軽減と行事自体の改善が求められる。

エ 課題研究に携わる教員研修の継続と総探担当教員の育成

5 年間 SGH の指定を受け、1 年生から 3 年生までの課題研究に関わり、実際の指導を経験してきた教員が多いわけだが、研究の指導となると、まだ大きな不安を抱く教員がいる。課題研究の手法等に関する研修を継続し、さらに学年を担当するリーダーとなる教員を育成していく必要がある。

(7) 今後の持続可能性について

本校は早い段階から、財源があまりなくても行事などが実施できるよう考えてきた。たとえば、1 学年が自分の課題研究のテーマを決めるために行っている地域リーダーズシンポジウムは、卒業生や地域の方々のボランティアで成立している。また、生徒のフィールドワーク等は自費になっても多くの生徒が行きたいと考えているので、成立すると思われる。主に次の 4 つの事について記述する。

ア 海外グローバル研修（カナダ）

この行事は本校が SGH 指定を受ける前から実施しているものであり、継続していく。

イ 台湾グローバル研修

本校の教育目標が『国際人として活躍できる真のリーダー』の育成であり、SGH 指定終了後は佐野グローバル構想となるので、継続していく。

ウ 課題研究の専門家の指導

リーダーズシンポジウムを初め、本校のためにボランティアで協力していただける人材をある程度発見することができた。さらに、人材確保に努める。

担当課	学校教育課	TEL	028-623-3382
氏 名	吉川知宏	FAX	028-623-3399
職 名	指導主事	e-mail	t-yoshikawat01@pref.tochigi.lg.jp